

所属・資格 哲学科・教授

申請者氏名 小林 紀由

研究課題		「神のかきかえ」と政治・経済的変動とのかかわりに関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>申請者はこれまで、新約聖書など正典類にみられる「神のかきかえ」とその神を祀る共同体の変化とのかかわりの関係を研究目的としてかかげた研究をおこなった。その目的のために、新約聖書、古事記、日本書紀、クルアーン、さらに戦後天皇制にかかわる研究文献の購入に研究費をもちいた。</p> <p>本年度の申請になる研究においては、同様の「神のかきかえ」をとりわけ新たに形成される政治・経済体制との相応関係に注目し、研究の深化をはかった。また、昨年度は対象外とした、「旧約聖書」諸文献についても取り上げることにより研究の幅も広げたいと計画した。この研究は宗教学の研究領域としては、宗教と社会変動とのかかわりに関する研究に位置づけられるが、正典類にみられる「神のかきかえ」に焦点をあてるところにその特徴を見いだし得るものと考えている。研究費はその大半を関連研究文献の購入にあてた。</p>
	研究の結果	<p>本年度の研究においては「ルカ福音書」における「神のかきかえ」において、一定の結果を得ることが出来た。「ルカ福音書」は従来から、「マルコ福音書」に編集をほどこしたものであることが知られていたが、本年度の研究においては、「マルコ福音書」を編集した部分以上に、新たに挿入された新資料部分に、ルカの特徴をなす重要な「神のかきかえ」を指摘することが出来るとの知見を得た。それは取り訳け「富の再配分」を強く訴える神を記すものである。</p> <p>報告者はこのルカによる「神のかきかえ」がローマ帝国支配下における貧富の格差拡大に、ユダヤ人の神の枠を超え、貧しい者の側にたつ神としての神観を打ち出そうとの意図によるものと判断している。</p>
	研究の考察・反省	<p>本年度の研究においては、残念ながら、当初目的とした旧約聖書と新約聖書との関係にふみこむことができなかった。また、ローマ帝国支配と福音書における「神のかきかえ」との関係についても同様である。今後の課題とし、研究の深化をはかりたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究成果物 「高等学校「倫理」におけるキリスト教の教え方について」『精神科学』第57号、2019年3月発行予定、日本大学哲学研究室</p>	